

議会報

飯南

いinan

- 02 特集:アンテナショップの役割は
- 04 6月定例会報告
可決された主な議案
一般会計補正予算
- 05 一般質問
- 09 討論/採決の結果
- 10 常任委員会報告/議会活動報告
議会全員協議会の議題
- 12 明日を拓く

第54号
平成30年7月20日



飯南町と島根県の情報伝えます



今秋で開業5年を迎える

アンテナショップの役割は

広島県三次市の飯南町アンテナショップ「iまるシェ」は、10月で開店5年目を迎えます。飯南町や島根県の情報を伝えるアンテナショップとして、飯南町産物や県内の健康・美容商品が販売されています。店内の「一福そば広島三次店」は美味しい蕎麦目当てのお客様で昼食時は満席です。



施設内にある一福広島三次店



健康と神の国を掲げて

6月より運営スタイルを少し変えた店舗では、健康をキーワードとした商品が販売されており、町産野菜や県内の健康に資するものが揃えられています。六道湖のしじみや有名茶舗のお茶をはじめ、加工玄米などの健康食も人気です。また、神の国「しまね」をモチーフとしたコーナーもあり、赤穴八幡宮監修で古事記に登場する神々を、特に神戸川水系に沿って紹介されており、赤穴八幡宮に伝わる「丹塗矢伝説」や、それぞれの神話に基づく神の名のいわれなどをポストカード(無料)にしています。

iまるシェは、町の指定管理により、商工会・J・A・森林組合・旬一福などの有限責任事業組合「飯南パートナーズ(LLP)」によって運営されており、月に一度は各担当企業等がPR活動を行っているとのこと。

アンテナショップの役割は

飯南町アンテナショップの役割は、飯南町の魅力と、島根県の情報を伝えることで町を知ってもらい、イベントなどへの交流人口の増加をはじめ、暮らしの拠点とする定住人口の増加を目的の一つとしており、単なる物販所ではないはず。

また、アンテナショップは、市場情報を探ることもでき、店員から受けとった情報をもとに生産物の方向転換などを図ることもできます。

節目を迎え あり方が問われる

昨年の6月定例会一般質問で、iまるシェに関連し「撤退も含めた抜本的な対策が急務」との指摘があり、町長は「もう少し整理し、努力を続けたい」と継続の意思を述べています。

指定管理施設のあり方が問われる中、iまるシェは5周年を迎えます。厳しい現状を踏まえ、今一度、目的を明らかにした運営が求められます。



ゆめマートの敷地内で営業するiまるシェ

一般質問

6月定例会



伊藤 好晴 議員

平成30年

6月定例会終わる

6月5日から15日までの11日間で開催

男女共同参画社会基本法に基づき、本町の基本的施策を定めるために、「飯南町男女共同参画推進条例」を制定した。

定例議会終了後、二輪草の会の皆さんによる啓発劇を鑑賞し、慣習の中に性別による差別があることなどを学んだ。

平成29年度は、補正予算編成のたびに社会資本整備総合交付金の減額があり、当初予定されていた重要な事業が実施できず、大変残念であった。今回、2196万円の追加交付の内示を受け、

昨年度実施できなかった事業を予算化した。遅れていた土木事業の進捗が図られ、住民の皆さんの利便性が向上することを期待する。

可決された主な議案

■条例関係

飯南町男女共同参画推進条例の制定など4件

■承認

飯南町税条例等の改正など9件

Q住民に寄り添う地震対策を

夜中の地震であったが、発生後直ちに余震への注意喚起、被害状況を知らせたい旨の放送はなかった。被災したかどうかかわからないかもしれないが、住民は不安にさいなまれていた。もっと早い対応が求められる。発生直後に、安心させる。励ます行動が求められる。震度4を観測したが、角井地区での震度が5未満だったか疑問がある。震度計を増設すべきではないか。支援のあり方について、5点提案する。

- ①高齢者世帯の被災状況の把握を、聞き取りも含め詳細に実施。
- ②町が行う支援制度は、訪問するなどのきめ細やかな配慮を。
- ③状況によっては、復旧や片付けなどへの支援を検討。
- ④支援が不十分などところへの追加支援。
- ⑤被災証明や罹災証明の発行は、窓口に向かなくてもできるように。



八神地区の法面崩落現場

Aきちんと対応

町長 山崎英樹

告知放送は、時間を問わず行う。周囲から見える活動をして励ましていく。地震計の増設は考えておらず、推計震度分布図を活用する。

高齢者への対応は、しっかりとやっていく。県で災害支援基金の話もある。追加支援は、色々なケースがあり、今後の課題とする。現地調査を行った世帯を二戸二戸訪問して説明している。留守宅への対応もきちんとしている。

■予算

平成30年度飯南町一般会計補正予算第2号など7件

■諸議案

飯南町防災行政無線整備工事請負契約の締結など3件

■報告

議会の委任による専決処分報告2件



二輪草の会の皆さんによる啓発劇

Qトイレ改修と公衆トイレの設置

先日、赤名環境改善センターで食生活改善推進協議会の島根県総会が開催された。男子トイレを女子用として提供、仮設トイレの設置など努力はあったが混雑した。トイレの数が不足しており、増設が必要だ。「みせん」も同様である。

両施設ともに、洋式トイレの設置はあるものの、数が足りていない。洋式への取り替えとともに、多目的トイレの設置を提案する。

また、連たん地に公衆トイレがないので、設置を求める。



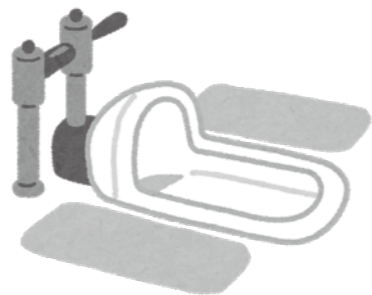
赤名農業改善センターのトイレ

Aいずれも今後の課題

町長 山崎英樹

トイレの心配はしていた。大勢が一度に使用するので、ある程度の混雑はやむを得ない。質問の意図は理解するが、すぐに増設することはできないので、今後の課題とする。洋式化への移行も将来の検討課題とする。

公衆トイレの政策優先度は低い。夜間使用はできないが、既存の公共施設のトイレを使って欲しい。



【平成30年度 一般会計補正予算 1億5221万円増額】

島根県西部地震災害対策費798万円の増額、社会資本整備交付金1億4039万円の増額、農作物鳥獣被害防止事業384万円の増額など

各会計	補正予算額	予算総額	
一般会計	1億5221万円	81億668万円	
特別会計	国民健康保険事業	15万円	6億6515万円
	簡易水道事業	368万円	4億3957万円
	下水道事業	368万円	4億103万円
	介護保険サービス事業	30万円	3350万円
病院事業	2011万円	12億7116万円	

一般質問

6月定例会



内藤 眞一 議員

Q 島根県西部地震 対応は

- ・災害見舞金の支給決定までに1ヶ月以上が経過している。遅れた要因は何か。
- ・災害に伴う修繕費用などは控除対象となる。申告時の指導はどうか。
- ・被災地では、「被害が出ているのに行政は見にも来ない」「職員を見たこともない」等の声が上がっていたが、現地対応はどうだったか。

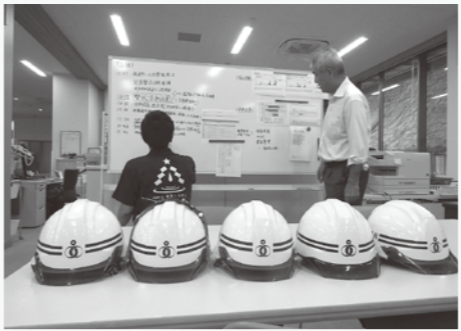
A 検討に 時間を要した

総務課長 那須 和博

一部損壊に該当しない小規模災害に、独自の見舞金制度を創設した。

近隣市町の状況や大雪災害の支援との均衡、私有財産への税金投入につながることから検討に時間を要した。

地域防災計画に定める警戒態勢に入り、初期災害応急対策を各課に指示した。応急資材の配給や被害報告による現



大雨警報を受け災害警戒本部を設置

地確認と支障木除去など応急作業を実施した。また、農地・農業用施設被害の現地確認を行った。

家屋被害の調査に対応できる職員がおらず、県も被害の大きい大田市を優先したこと、で現地調査が遅れた。

A 雑損控除が該当

住民課長 藤原 清伸

「雑損控除」に該当する場合はあるので、相談があれば受ける。確定申告の日程通知の際に広報を行う。

Q 防災への 取り組みは

- ・今までの質問で「三瓶山麓から三次付近までの断層」については、県が認めれば被害想定に加えるとのことだった。この度の地震で裏付けがとれたと思う。「地域防災計画の被害想定」に加えるべきではないか。
- ・昨年度は、防災士養成費を30人分計上していたが、結果はどうか。
- ・職員の目視による状況報告をすることで、次の行動・対策が迅速になるのではないか。
- ・地震計は赤名・頓原に設置しているが、三瓶山に近い志々地区への設置を求める。

A 着実に 対応 している

町長 山崎 英樹

その断層は検討の対象になっていない。島根県の被害想定に加えられれば掲載する。

・防災士は、昨年は30人の公募を行い15名が取得した。本年度は15人の公募に対し4名の応募があった。これからも呼びかけをする。

・素早い情報収集は重要だ。職員には普段から意識を持つように指導する。

・県下には市町村設置の地震計はない。気象台からも「推計震度分布図」を活用するよう指導があった。



Q 災害対応と備えは

4月9日の地震直後、ある住民の方が直ちに役場に電話をしたとき、「今、自分以外に2人ほどいますが、今どうにもなりません」という言葉が返ってきた。その方は「さらに不安になり本当に困りました」という話を聞いた。

いつ、どのような状況下に置かれても、町民全員が安心できるよう、過去の反省も含めて平素の訓練が何よりも大切なことだと思ふ。

浜田市の訓練では、災害発生時の情報伝達の方法や炊き出しの訓練も行われた。

防災訓練を基本から見直し、繰り返し行い、自分自身の家族、また地域住民全員が安全に避難できる訓練が必要と考えるが、どうか。

A 対応強化を図る

町長 山崎 英樹

本町においては「飯南町地域防災計画」に基づき行動する。今回の震度は「4」で、警戒体制が自動的に入り、関係職員が直ちに登庁した。

災害は日ごろからの備えが重要で、住民による自主的な取り組みも行われている。今後の防災訓練は、地震も想定した訓練とする。

住民の皆さんへ寄り添う対応が不足していたと反省している。各支所に職員を配置し、夜中であろうと躊躇なく告知放送をするよう改善する。

Q 農福連携 どう思う

農業と福祉の連携の促進に必要な施策提言が発表された。雇用の場を求める福祉事業者と、働き手が欲しい農業者が足りないところを補い合う論である。

政策を持って地域を守りふるさとを守る農福連携は、将来大切になっていくと思うが、どう考えるか。

A 有効と 考える

町長 山崎 英樹

本町での集落営農組織等の労働力不足や次の世代を担う後継者の確保対策として、また、障がいのある方の就労場の確保を図るため、この農福連携は有効なシステムであると考えられる。町内の一部の組織では実践されており、農業担い手支援センターの取組みの中で協議がなされている。

障がい者施設とのマッチングもあり、すぐに出来るという状況でない。

今後、引き続き関係機関と研究していく。

一般質問

6月定例会



瀧尻 行雄 議員



施設内での農作業

一般質問

6月定例会



熊谷 兼樹 議員

Q 外国人実習生 支援強化を

本町では、農業・建設・製造業等で外国人技能実習生を受け入れている。中山間地域では日本語の学習機会が乏しく、外国人の孤立化を懸念する声もある。日本語を学ぶ場を提供し、交流を図ってはどうか。

また、日本中が人手不足に悩まされており、特に介護を担う人材不足は大きな社会問題となっている。本町でも介護福祉士の確保は急務であり、外国人介護福祉士の養成に取り組んではどうか。

A 慎重に検討

町長 山崎 英樹

現在39人の外国人が本町に滞在し、受け入れ事業所で技能実習に励んでいる。その皆さんが「飯南町は住みやすい」と感ずることは重要で、そのために相互交流は必要だ。当事者の気持ちを聞き、今後整理していく。

外国人介護福祉士の確保については、飯南町福祉施設協議会と情報を共有し、人材確保支援センターが窓口になり連携して取り組んでいるが、指導員の準備や経営に与える負担も引き続き研究していく。



Q 和牛振興の推進を

本町では、優良牛確保対策事業を行っているが、低能力牛や高齢牛の更新にあてられ増頭には繋がっていない。生産基盤再生のため、畜産クラスター事業補助金と町費で繁殖素牛を50頭程度導入し、希望する農家に貸し付けることで増頭を図ってはどうか。

また、飯南町酪農協の堆肥センターを改修し、畜産基地として全共出品対策の拠点としてはどうか。

A 関係機関と連携し 取り組む

町長 山崎 英樹

牛を貸し付けるというアイデアは即効性がありそうだが、今の状況でそれを誰が飼育するかが大きな課題となる。和牛改良組合で増頭対策の具体的な事業が設けられており、関係機関と連携を密に取り組む。

草地の再利用は考えていない。未利用畜産施設の利活用については、要望があれば関係機関と連携し支援する。

飯南町酪農協の堆肥センターを、町が運用するのは難しい。

DEBATE

討論

飯南町税条例の一部を改正する条例

反対討論 伊藤 好晴 議員

個人所得税の見直しの給与所得控除から基礎控除への10万円の振替えは、二つの控除の意義の違いを無視したもので問題だ。さらに、給与所得控除の上限引下げ(1千万円→850万円)は勤労世帯中間層への増税となり反対だ。

平成29年度飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)

反対討論 伊藤 好晴 議員

高齢者に大きな犠牲を求める後期高齢者医療保険制度そのものに反対だ。元の老人保険制度に戻すべきだ。

飯南町税条例の一部を改正する条例(追加議案)

反対討論 伊藤 好晴 議員

AいやーOTなど、新たな情報技術を活用して、生産性を向上させなければ国際競争力を失うということ、これに投資を促すとともに、「サンドボックス」と呼ばれる特例制度を創設するために作られた法律だ。

補助金の優先権が付与されるなど、一部企業のみ支援するもので反対だ。

賛成討論 門 眞一郎 議員

今求められているのは設備投資と人件費の増額だ。機械のA-I化が進むなか、小企業の人手不足を解消しつつ、新たな製造機械分野を振興する両面の効果があるので、賛成する。



採決の結果

[6月定例会]

全23議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	伊藤好晴	瀧尻行雄	門眞一郎	熊谷兼樹	内藤眞一	早樋徹雄	高橋英次	景山登美男	安部 丘
飯南町税条例等の改正	承認	●	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町地域の振興を促進するための固定資産税の課税免除に関する条例の改正	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度飯南町一般会計補正予算(第10号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第3号)	承認	●	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度飯南町簡易水道事業特別会計補正予算(第6号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度飯南町下水道事業特別会計補正予算(第5号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成29年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第4号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町一般会計補正予算(第1号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町男女共同参画推進条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町子ども等医療費助成条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町防災行政無線整備工事請負契約の締結	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(飯南町小型動力ポンプ付普通積載車)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(飯南町学校給食会備品)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町一般会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町下水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町病院事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町税条例の改正	可決	●	○	○	○	○	○	○	○	○
平成30年度飯南町一般会計補正予算(第3号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○賛成 ●反対



奥真木の畜産農家大塚さんの牛舎

教育経済 常任委員会

委員長 内藤 眞一



町道駐車場川原線を視察

平成29年度 飯南町一般会計補正予算(第10号)

農作物被害防止事業 194万円の減額

いのしし等の捕獲数の減少による有害鳥獣捕獲奨励金の減額と、猟銃の取得への補助など担い手確保対策費の利用がなかったことによる減額。

銃器の免許取得、猟銃の取得者が少ないのは、補助金の金額が上限10万円で、取得費用に見合っていない可能性がある。調査して対応すべきとの意見があった。



平成30年度 飯南町一般会計補正予算(第1号)

公共土木施設災害復旧応急復旧 305万円

島根県西部地震による道路のクラックなど10件の応急復旧をするための予算。

平成30年度 飯南町一般会計補正予算(第2号)

農業復旧対策事業 1,188万円

島根県西部地震により被災したJA島根のカントリーエレベーターの修繕費を補助するもの。

道の駅頓原臨時管理費 290万円

都市交流センターやまなみのボイラー及び配水管の修繕によるもの。

各施設のボイラー等のガス化が進む中で、ガソリンスタンドの閉店による住民生活への影響が心配されている。委員から将来のエネルギー確保も意識した燃料の調達を考えるべきとの意見があった。

橋梁長寿命化事業2,440万円、法面等災害防止事業1,770万円、町道頓原長谷線整備事業3,294万円、通学路整備事業2,200万円、町道角井境線整備事業850万円、町道頓原寺沢花栗線整備事業650万円は、ともに社会資本整備総合交付金が増額となったことによるもの。

当交付金は昨年度減額になり、事業の大幅な遅れがあった。この度の増額補正により、進捗が図られることを期待する。

町道頓原寺沢花栗線は、現地視察の結果、病院利用者の駐車場確保のため計画の路線を変更すべきではないかとの意見があった。

6月15日

- ①島根県西部を震源とした地震被害
- ②土砂災害特別警戒区域の指定
- ③町政座談会の開催
- ④集落実態調査
- ⑤飯南町障がい者福祉計画
- ⑥水道施設の水質異常
- ⑦「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」飯南町開催

議会全員協議会の議題

4月6日

- ①水道・下水道・住宅使用料収納事務の誤り
- ②平成30年1月～2月の水道施設断減水

5月18日

- ①島根県西部を震源とした地震被害に対する支援制度
- ②情報基盤整備事業
- ③地方公会計
- ④飯南町人材育成プログラム協定
- ⑤島根大学教育学部研究拠点
- ⑥生産性向上特別措置法

総務厚生 常任委員会

委員長 瀧尻 行雄



火葬場の視察で改修箇所の確認

飯南町税条例の 一部を改正する条例

生産性向上特別措置法の制定に伴い、飯南町の税条例を改正するもの。

生産性の高い設備を新たに導入した際、これに掛かる固定資産税を3年間免除するもの。対象事業所は資本金1億円以下の法人、従業員数1000人以下の個人事業主等のうち、先端設備等導入計画の認定を受けたもので大企業の子会社でないこと。

飯南町男女共同参画 推進条例

男女共同参画社会基本法に基づき、男女共同参画に関する基本理念を定め、男女共同参画社会の実現を図る。

平成29年度 飯南町一般会計補正予算(第10号)

ふるさと応援寄付金 500万円の減額

ふるさと応援寄付金は1億2500万円余となり、過去最高の実績。

返礼品は、他の地元産品を使って種類を増やし、飯南町のPRに努めるように求めた。

平成30年度 飯南町一般会計補正予算(第1号)

災害対策臨時管理費 190万円

島根県西部地震による被災家屋の早期復旧のために、災害見舞金150万円、被災者生活支援金40万円を予算に計上するもの。復旧支援に万全を期すよう求めた。

平成30年度 飯南町一般会計補正予算(第2号)

地域振興臨時管理費 240万円

宝くじ助成事業により来島地区の和田公民館の設備を備えるもの。

本事業については、広く町内に周知するよう求めた。

ふるさと回想館臨時管理費 290万円

飯南ラボの開設に当たって、ふるさと回想館入口付近の舗装を実施するもの。

町営火葬場臨時管理費 146万円

施設内の壁面張替と備品購入するもの。施設の整備にあわせて火葬場技術員の研修を求めた。

※飯南ラボ：島根大学作野教授の教育拠点の分室として開設

議会活動報告 [4月～6月]

- 4 2日 議会広報編集委員会：議会報飯南の紙面編集
- 5日 総務厚生常任委員会
議会広報編集委員会：議会報飯南の紙面校正
- 6日 議員全員協議会
- 9日 議会運営委員会
- 10日 総務厚生常任委員会
- 23日 総務厚生常任委員会
議会運営委員会

- 5 2日 教育経済常任委員会：地震被害と対応状況の確認など
- 8日 議会運営委員会
- 18日 議員全員協議会
- 21日 議会運営委員会

- 6 1日 議会運営委員会：6月定例会の提出議案と日程ほかの協議
- 5日 6月定例会：本会議、町長提出議案の説明
- 8日 | :本会議、一般質問
- 11～13日 | :委員会審査
- 14日 | :委員会審査、予算特別委員会審査
- 15日 6月定例会：本会議、討論、採決
:議員全員協議会

- 18日 議会運営委員会
- 19日 議会広報編集委員会：議会報飯南の紙面編集
- 22日 議会広報編集委員会：議会報飯南の紙面編集
- 28日 議会広報編集委員会：議会報飯南の紙面校正

出雲大社への大しめ縄奉納を前に

飯南町注連縄企業組合

石橋 真治さん

しめ縄作業の昔と今は

前回より姿の美しいものを作り上げたいと思っているが、なかなか難しい。

私が携わったのは2本目からで、これが6本目になる。その頃は今のようになるとは思ってもいなかった。場所も琴引荘の裏にある建物で、蒲生を広げるスペースもないところで、1日仕事で燃り合わせていた。今と違って見に来る人もなく、静かに作業していた。

運営状態は

組合員は20人だが、常時かわつている人は10人くらい。いつも5人くらいがここで制作に携わっている。



棟梁の石橋さん

大しめ縄の制作は、月に2本くらいが限界なので、来年まで待つてもらうこともしばしばだ。県外からわざわざ見に来て、発注して帰るお客様もある。

北は山形県天童市の緑の迎賓館にある出雲大社分院や、南は長崎県の神社と、宮崎県の霧島酒造に納めている。霧島酒造では新しい蔵を建てたので、そこへ飾りたいと社長ほか数人が来られた。

大しめ縄の需要は、制作能力を越えている状態だ。

今後の課題は

後継者の育成をしなくてはならない。知っていることはすべて伝承しなければならぬ。体で覚えるまで数を作らなければならない。

次の出雲大社への奉納は7年後だが、それまでに育て上げたいと思っている。

大しめ縄に携わって思うことは

大しめ縄に携わったことで様々な人との出会いをいただいたこと。ここを訪れてくださった何万人ものお客様と交流することができたこと。

納品したしめ縄を見た人から、驚きと喜びの声を頂いたとき、なんともいえない達成感を味わうことができる。

このような機会を与えてくださった町民の皆さんに感謝している。さらに出来映えの良いしめ縄を作れるように、精進していきたい。



「しめの子」の仕上げを入念にチェック

今月の表紙写真



今月、出雲大社神楽殿に奉納された大しめ縄を、魂を入れて制作されています。束ねた藁を3本、7本と締め上げながら、最終的には150本を使用し、直径1.2メートル、長さ17メートル、重さ1.7トンにもなる中芯なかじんを作成し、その上に粗蒲生あらごも、上蒲生うわごもを巻き、より合わせて完成するのです。「今年は、最も太くなる箇所を前回よりも端に寄せてみた」と、好きなお酒を断つても、大しめ縄づくりに取り組む棟梁の石橋さんの言葉からは、強い思いと熱意が伝わってきます。

編集後記

4月9日の深夜、三瓶山付近を震源とする地震が発生しました。被災された皆さんにお見舞いを申し上げます。今定例会の一般質問には4人が登壇し、そのうち3人が地震の被害や対応について町長に質しました。

災害はいつやってくるかわからず、常日ごろより万全を尽くしておかねばならぬものです。しかし、口で言うほど容易なものでなく、時がたてば意識の中から消えていくものです。

このたびの経験を生かし、行政も住民も、今一度災害時における取るべき行動を共に話し合ってみる必要があると感じました。

2011年3月12日、長野県栄村は震度6の地震に襲われ、家屋の全壊33棟、半壊169棟、一部損壊486棟の被害を受けながら、死者3人、軽傷者10人でした。この村では、災害時における助け合い、安否確認の仕組みが確立されていたため、人的被害を最小限にとどめることが出来たということです。このたびの災害を、地域の中で助け合いの仕組みを話し合うきっかけにしたいものです。

議会広報編集委員会 門 真一郎